

平成 30 年 7 月 31 日 作成 近藤 康太郎
平成 30 年 8 月 1 日 修正 原田 寛之, 全 炳俊, 近藤 康太郎

日本物理学会第 73 回年次大会(2018) ビーム物理領域インフォーマルミーティング
(ビーム物理研究会総会) 議事録

日時 : 2018 年 3 月 23 日 (金) 17:30-19:10

会場 : 東京理科大学 野田キャンパス K607 会場

出席者 (順不同・敬称略) : 27 名

羽島 良一, 鷺尾 方一, 宮本 修治, 加藤 政博, 齋藤 寛峻, 不破 康裕, 岩下 芳久, 菅 晃一,
栗田 哲郎, 宮本 篤, 保坂 将人, 神田 浩樹, 柏木 茂, 川瀬 啓悟, 境 武志, 黒田 隆之助,
日野 正裕, 坂上 和之, 山本 尚人, 濱 広幸, 芝田 達伸, 栗木 雅夫, 福島 慧, 守屋 克洋,
原田 寛之, 全 炳俊, 近藤 康太郎

司会 : 原田 寛之

書記 : 近藤 康太郎, 全 炳俊

配布資料 :

2018S-1 : ビーム物理研究会会則改定案

2018S-2 : 日本物理学会学生優秀発表賞について

2018S-3 : ビーム物理研究会・若手の会～現状・活動報告～

議事内容 :

1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
 - 2-1. 日本物理学会ビーム物理領域関連
 - 2-2. ビーム物理研究会関連
 - 2-3. 日本加速器学会関連
3. その他
 - 3-1. ビーム物理研究会 会則の見直し (羽島会長)
 - 3-2. 次回の総会・世話人会
 - 3-3. 日本物理学会論文賞について

1. 前回議事録確認

2017年8月3日に開催された第14回日本加速器学会年会インフォーマルミーティング（ビーム物理研究会世話人会）の議事録の配布はなかったが、事前に送っていた通り、既に内容については確認されたとした。その場で意見・コメントはなく、承認された。

2. 報告・審議事項

2-1. 日本物理学会ビーム領域関連

[大会関連]

一般講演について

一般講演の件数および内訳についての報告があった。2017年次大会は127件（合同分を除くと61件）の講演件数であったことに対して、今2018年次大会は125件（合同分を除くと107件）の講演件数であった。その内、シンポジウム3件で22講演、合同企画講演1件1講演であった。合同分を除いた主催分の講演件数の増大は、今大会の領域2との合同セッションがビーム物理領域主催であったことが原因の一つといえる。

一般講演件数の推移

今2018年次大会の講演数を含む過去13年間における日本物理学会年次大会での一般講演数の推移についての報告があり、講演件数はほぼ例年通りであった。

他領域との比較(今大会)

今2018年次大会の講演件数に関して他領域との比較に関する報告があった。合同増分を除き、ポスター発表を含めた講演件数に関して、ビーム物理領域は領域10、領域13の講演件数を超えた。今大会「物理と社会」の領域がなくなっていることから、講演件数の重要性が示されているとした。後日羽島会長と原田運営委員で確認した所、「物理と社会」の領域自体が存在しておらず、日本物理学会が主催するシンポジウムが開催される場合のみ、プログラムに記載されると思われる。

全領域 概要集提出率

今回初めて事務局から送られてきた概要集の提出率に関する報告があった。物性物理領域全体の平均提出率は93.5%と高く、一方でビーム物理領域は素核宇ビ領域の中では最も高い82.2%であった。引き続き、継続していくべきである。

所属機関別内訳について

講演者の所属機関別内訳に関する報告があった。J-PARCを含むKEKが最も多い所属機関であった。理研やJASRI等の大きな研究機関からの発表がなかったため、今後も広く周知していくことの重要性が確認された。

他領域との合同セッションについて

例年通り領域2との合同セッションであるレーザー・プラズマ加速が最も講演件数が多かった。

また、実験核物理領域と素粒子実験領域との合同セッション「J-PARCの加速器・測定器技術」の名前を2019年3月からより一般的な「大強度加速器・測定器技術」に変更するとの提案があり、異論はなく承認された。来年度の年次大会より、変更となる。今大会では、共催の合同チュートリアル講演が1件あり、今後も継続的な提案があるのが望ましいとのコメントがあった。そして、シンポジウム講演に関しては主催2件、共催1件であったことが報告された。

若手奨励賞受賞記念講演

今大会では、福島 慧氏(ミシガン州立大学)が受賞した事が報告された。講演資料は後に公開される予定である。博士論文も審査対象となるため、博士論文の提出があった場合にはその指導教員を通じて原則応募するようにすることが望ましいとのコメントがあった。表彰件数は最大2名なので、今後も広く周知していくことが確認された。また、応募期限を例年通り7月末日とすることを確認した。

秋季大会までのスケジュール

秋季大会までのスケジュールが確認された。「素宇」は2018年9月14日から17日まで信州大学・松本キャンパスで開催され、「核」が2018年10月23日から27日までアメリカ合衆国ハワイ州・ハワイ島で、「物性」が9月9日から12日まで同志社大学・京田辺キャンパスで開催される。秋季大会ではビーム物理領域の一般講演は開催されないが、シンポジウム等の他領域との合同開催は可能であると報告された。提案がある場合には、運営委員まで連絡してほしい。

日本物理学会 学生優秀発表賞について

領域代表の羽島 良一氏(量研)より資料(2018S-2)を用いた説明があった。日本物理学会「学生優秀発表賞実施要綱」が制定され、ビーム物理領域においても学生優秀発表賞を設ける予定である。そのビーム物理領域の実施要綱の制定のため、各項目に関して議論された。受賞人数は最大5名とすることになった。また、審査対象は合同セッションでも審査できるが、学生から自己申告してもらう必要がある。そのほかの項目に関しては概ね承認されたため、本実施規則を理事会に挙げる予定となった。

[領域運営関連]

執行部と事務局の確認

ビーム物理研究会ならびに日本物理学会ビーム物理領域の現執行部の確認が行われた。2019年4月からの日本物理学会ビーム物理領域の副代表の選出に関して、次期代表の鷲尾 方一氏(早大)より推薦があった栗木 雅夫氏(広大)が次期副代表として承認された。

次期領域運営委員について

現領域運営委員の近藤 康太郎氏(量研)の後任として、都合により欠席であった大塚 崇光氏(宇大)の紹介が近藤氏よりされ、承認された。任期は2018年10月から2019年9月までの1年間となる。

領域 2・合同懇親会の打診

領域 2 との合同懇親会に関する説明があった。議論の結果、来年度に関しては、領域 2 から誘いがあった場合、合同で懇親会を実施する方向で調整することとなった。事前に運営委員が懇親会出欠を取り、領域 2 の運営委員に伝える必要がある。

2-2. ビーム物理研究会関連

[研究会関連]

ビーム物理研究会・若手の会 2017 について

ビーム物理研究会・若手の会 2017 は、分子科学研究所極端紫外光研究施設加速器グループならびに名古屋大学シンクロトロン光研究センター加速器グループの主催により 2017 年 11 月 16 日から 18 日まで開催された。加藤 政博氏(分子研)より若手の会「若手発表賞」を含めた研究会の報告があった。旅費の支給は学生全員にすることができ、学部生からの参加もあったことが確認された。また、参加した学生の所属大学に偏りがあったので、今後も広く周知していくことが言及された。そして、発生した懇親会費の繰越金は次回の懇親会で使用する予定。

ビーム物理研究会・若手の会 2018 について

ビーム物理研究会・若手の会 2018 に関して羽島氏より説明があった。次回のビーム物理研究会は量研・放医研にて 2018 年 11 月 20 日から 22 日まで開催し、若手の会はビーム物理研究会の後半の 2018 年 11 月 21 日から 22 日まで開催する予定である。

[研究運営関連]

若手の会の運営報告について

ビーム物理研究会・若手の会に関して原田氏より資料(2018S-3)を用いた説明があった。組織化の流れと現状、アニュアルレポート 2016・2017、第 2 回若手科学者サミット、ビーム物理研究会・若手の会 2017「若手発表賞」およびビーム物理研究会・若手の会会則等について報告があった。その中で、若手の会の会員が全員日本物理学会会員とは限らないため、その総会は若手の会実施時に行うということの検討必要性についてのコメントがあった。ビーム物理研究会・若手の会会則は概ね承認され、この承認をもってビーム物理研究会・若手の会が設立となった。ホームページや入会様式の作成後、会員の入会案内を開始する予定である。

2-3. 日本加速器学会関連

第 15 回日本加速器学会年会のお知らせ

会期：2018 年 8 月 8 日(水)～8 月 10 日(金)

共催：長岡技術科学大学

後援：新潟県、長岡市

会場：ハイブ長岡(新潟県長岡市)

備考：会期中にインフォーマルミーティング・ビーム物理研究会世話人会を開催予定

3. その他

3-1. ビーム物理研究会 会則の見直し（羽島会長）

ビーム物理研究会会則の改正に関して羽島氏より資料(2018S-1)を用いた説明があった。特に、実態により沿った記述にするために会則にある「世話人会」を「幹事会」に修正を施す予定である。また、現状日本加速器学会の年会に合わせて実施している世話人会を「拡大幹事会」として幹事会メンバーのほか、一般会員を含めた会合を設ける予定である。2019年春の総会にて正式な会則改正の決議を行い、即日実施とする。

3-2. 次回の総会・世話人会

次回の世話人会は2018年8月8日(水)～10日(金)に開催される第15回日本加速器学会年会（ハイブ長岡・長岡産業交流会館）の会期中に行う。総会は2019年3月14日(木)～17日(日)に開催される日本物理学会第74回年次大会(九州大学・伊都キャンパス)の会期中に行うことが確認された。

3-3. 日本物理学会論文賞について

羽島氏より日本物理学会論文賞の紹介があった。ビーム物理領域からは対象論文のうち Google scholar で citation の最も多い論文を推薦したが受賞されなかった。ビーム物理領域においても本賞対象論文誌への積極的な投稿依頼が行われた。

以上